

Counseling for gay couples who want to be parents

代理出産を希望するゲイカップルへのカウンセリング

Interviewee

Dr. Elliott Kronenfeld

Q. カウンセラーとしてのキャリアやバックグラウンドについて教えてください。

ヒューマンセクシュアリティの分野でPhDを取得した。そして臨床ソーシャルワーカーの有資格者として仕事をしている。セックスセラピーの有資格者であり、スーパーバイザーもしている。

私生活では、ゲイとして、代理出産と養子縁組で家族をもった。

2000年代の初めに生殖の分野で仕事を始めた。クリニックやエージェントのカウンセラーを経験した。世界中を旅行していろいろな文化を研究した。人々はどのように第三者生殖を利用して家族を形成しているか。それぞれの国ごとに法的枠組みがある。

しばらくしてエージェントを辞め、自分で独立して臨床を始めた。たくさんの会議で講演もしたし、たくさんの生殖医療の医師とも仕事をした。ドナーと依頼親のスクリーニングにもかかわった。親になりたい個人や家族のためのカウンセリングも提供してきた。カウンセリングの目的は、親になりたい人に対し、代理出産などを依頼した場合の移動、社会的、情緒的問題についてちゃんと理解で

きるよう情報提供すること。これには、養子だけでなく、いろいろなタイプの生殖補助医療の利用を含んでいる。

世界中のカップル、国際カップルにサービスを提供してきた。現在は中国でのビジネスが増えている。それ以外にはフランス、スペイン、アイルランド、UK、など。世界の生殖医療に関する法律は変化が著しく、法的親や子どもの市民権に関する情報提供を行うセッションもある。

Q. 代理出産を希望するゲイカップルに、どのようなカウンセリングを提供してきましたか? その間、カウンセラーとしての取り組みに変化はありましたか?

これまで、15年に渡ってさまざまな分野でカウンセリング・サービスを提供してきた。

例えば、1)第三者生殖を依頼することを考え始めた人のためのイントロダクションのための1-2回のコンサルテーション。2)より集中的なミーティング(特に、カップルのどちらかが消極的な場合、どのように進めるか、丁寧なカウンセリングが必要になる。プロセスを通じて、カップル関係が強固であることが非常に重要だから。3)代理母と卵子ドナーを依頼することを決めた人に対する集中的なサポートカウンセリング。代理母や卵子ドナーとの境界を明確にすることや、コミュニティ、家族、子どもに対しどのように伝えるかの計画を立てるのを手伝う。彼ら自身のストーリー仕立てを作ること、他の人に対して自信をもって話すことができる。

代理出産に関するカウンセリングの領域は、自分がこの仕事を始めてからだいぶ変わった。現在では、たくさんの知識がある。15年前は、クライアントはほと



んど何も知らなかった(生殖自体についても)。今は、テレビ、映画、本などで代理出産について知ることができる。有名人も代理出産を依頼している。その結果、代理出産について人々の話題にのぼるようになってきた。今は、基本的なことを教えることに時間を割く必要はなく、セッションの中で誤った情報を正すことにもっと時間を使うようになった。

ゲイカップルは、前に比べてもっと情報を持っているし、希望をもってセッションにやってくる。家族を作るという将来像に対して、不安は少なく、むしろ強い期待をもっている。しかしそれはそれで、別の問題があるので、修正しなければならないが。

Q. ゲイカップルの親にとって、リベラルな地域に住むことは重要ですか？

カウンセリングでは、ゲイカップルを病理化しないように、そして文化に対して敏感になるようにとても注意を払って行っている。カウンセリングでは、人々により選択肢を与えることにフォーカスしている。

クローゼットに籠るか、カミングアウトするかによって、住む場所を変えるカップルはたくさんいる。代理出産を依頼しようとするゲイカップルに告げるのは、社会に対してカミングアウトしないことはできないということ。子どもたちはとても正直だから、同性親についての情報は必ず知れ渡る。そのことで必ず対処しなければならない問題に直面するだろうということ。この種の問題については、カウンセリングの最初に議論する。

Q. ゲイとレズビアンのカップルが共同親権で子供を持つということは、最近でもよくありますか？

事情はだいぶ変わってきている。結婚は、社会的文化的契約のことでその目的も変化してきている。

国によって事情が違う。米国では、同性婚が15年前に認められた。現在では、結婚しないで法的に家族をつくるカップルが増えた。スウェーデンでは、ゲイでもヘテロでも結婚しないで家族をつくるカップルがごく普通のことだ。

結婚と家族を作ることは別の問題だと思っている。

Q. これから代理出産で子供ちたいと思うゲイカップルが一番心配していることは何でしょうか？ カウンセリング等ではどのようにアドバイスしますか？

主に3つの問題を挙げるができる。

一つ目は、費用の問題。

この問題を扱うには複数の方法がある。クライアントは家族をつくるためにいくら用意できるのかを考えなければならない。たくさんのクリニックやエージェントが、パッケージを用意している。そして、契約書には、余分な費用を支払わなくてもいいような条文が含まれているだろう。クライアントは、次のようなことを事前にしっかりと考えなければならない。例えば、二人とも遺伝的父親になりたければ2人の子どもが必要になるし、複数の子どもを持つ際に同じ卵子ドナーを使うのかどうか。何人の子どもが欲しいかによって必要な受精卵の数も違ってくるだろう。

二つめは、コントロールの問題。

自分のクライアントのゲイカップルには、代理出産のプロセスにおいて、依頼



者は最も重要ではない存在だということを伝えている。つまり、重要度について、次のような順番であるべきだ。1)既に誕生している子どもたち、代理母、そして卵子ドナー、2)代理母や卵子ドナーの医学的リスク、3)代理出産で生まれる子ども、4)クライアント。

クライアントは、ギフトの受取人だから、運転手の席にすわるべきではない。これは、伝統的な方法で子どもを持つ heterosexual カップルの場合でも同様で、男性はコントロールをすべきではない。実際には、医師や代理母がコントロールするものだから、依頼親は、信頼するしかない。代理母になる女性は、妊娠が初めてではないので、男性は彼らを信頼する態度を身につけなければならない。

ゲイカップルたちは、代理母をコントロールしたが。代理母の食事、仕事など。しかし女性はカップルのために仕事をしているわけではないということを知らなければならない。パートナーと協力的な関係を築き、密接な関係を持っていればそれがコントロールの感覚につながる。

三つ目は、不安のマネジメント。

代理出産のプロセスが始まると、不安が次第に増してくる。これは、クライアントから親になることに対する導火線のようなもの。不安は、子どもが生まれると同時に去ってくれるものではない。実際には、子育ての世界へようこそ、となる。親は子どもをコントロールできないものだという現実を理解してほしいと思っている。

Q. 子どもを持つことは、同性カップルの親密性にどのような影響を与えますか？

異性愛の法律婚カップルは子どもができた後、親密な関係が急激に低下すると

ということがよく文献などでは指摘されている。文化的な要素もあるが、一般的に言って、子どもを持つことで親密性が増すものではない。

ただ、第三者生殖で子どもを持つとする人にとって、それはよりバランスが取れたものになるだろう。というのもそれは非常に意図的なものになるから。だからストレスに対して、チームとしてどう協働するかについて心の準備ができて

いる。子育てをしているとき親密性は低下する。特に米国の文化では、子どもをまず優先する。代理出産の場合ならなおさら。カップルには優先順位を次のように置くことを勧めている。1)自己ケア、2)結婚、3)子どもたち。子どもを持つ目的は、子どもたちが去るようにすること。つまり、独立できるようにすることだ。多くの親たちが、親をやっているうちに相手との繋がりを見失う。そして、子どもが独立したあとに離婚するケースも少なくない。このような事態を避けるために、優先順位を意識して、子どもたちの存在が親密性にとって妨害になる可能性を念頭においておく必要があると思う。

Q. 同性カップルにとって、養子はポピュラーですか？

養子もさかんに行われている。三種類の方法がある。1)国際養子(ゲイカップルにこの選択肢はない)、2)養子のエージェントを通じたプライベートな養子、3)里親制度を通じた養子。

それぞれの方法は全く別個のものだ。だからカウンセリングではその違いを明確にする。そうすれば、カップルは、自分たちの選択をはっきりさせることができる。



養子を選ぶ理由は個人的な考えを反映している場合もある。例えば、人口増加を気にしている人、またはすでに生まれた子どもに対して家庭を与えることに関心がある人などがある。それから、自分が養子だったから、という社会政治的に強固な理由を持つ人もいる。養子の方が早いし安い、コントロールしやすいなどの理由で選ぶ人もいる。

Q. 代理出産を依頼できるのは高所得のゲイカップルに限られ、所得が少ないゲイカップルは諦めますか？

代理出産には高額な費用がかかる。だからよりたくさんの蓄えがある人が選択肢を持つ。経済的に困難な人はすべてのオプションを徹底的に精査する必要がある。例えば、卵子提供をシェアするか、凍結卵子を購入するなどの方法がコスト削減になる。

Men Having Babies は、ゲイカップルの親を支援するプログラムを持っている。医師、エージェントとも協力関係がある。だから、その支援プログラムを受けるカップルに対してはディスカウントを提供している。

遺伝的つながりがどの程度重要なのかを考えるのも大事だ。ある人にとってそれは非常に重要なことであるし、ただ親になりたいだけの人もある。これらのことを考えることで、目的を達成するためには何をすればいいかが特定できる。例えば、家を二番抵当に入れて新たにローンを組むか、節約するか、物価が安い所に引っ越しするか？ 家族から援助が期待できるか？ 等。

2人の子供を代理出産で持つのは高額な費用がかかる。一人を養子にするというのも費用を抑える選択肢の一つ。自分の場合は代理出産で子どもを持ったが、そ

れ以外に養子を一人迎えた。カップルに自分の個人的な経験をシェアすることもある。遺伝的につながっていない子どもより、つながっている子どもの方が可愛いと感じるのではないかといった不安を和らげることができる。

Q. 卵子ドナーは匿名が好まれますか？ それとも、open identity donor が好まれますか？

オープンアイデンティティのドナーの場合、その境界線をどのように引くかということはカウンセリングの非常に重要なポイントとなる。(家族や友人から提供を受けた場合など)

エージェントを通して代理出産を依頼する場合、多くの人は匿名ドナーを依頼しがち。自分はカップルに対して卵子ドナーは決して子どもに対する権利を主張するようなことはないと言っけ負う。親子関係についての法的枠組みがあり、そのような状況は起こり得ない。

心理学者の立場からは、子どもにとってドナーの情報にアクセスできることはアイデンティティにとって重要だと告げている。卵子ドナーで自分の身元を明かしてもいいという人は結構いる。しかし、実際に会いたいとは思っていないことが多い。例えば、子どもに重大な健康上の問題が起こったとき、ドナーは連絡を受ける。どのような状況で、どのように特定されてもいいのか、ドナーによって幅がある。どの程度の情報を受け取れるかは、子どものアイデンティティ形成にとって重要だ。

例えば、自分の娘の場合は、卵子ドナーの名前を知っていて、彼女の写真を持っている。それがあって、ドナーとどこが身体的に似ているか、把握できる。養子の子どもは、モルトバの孤児院



で2年間過ごしてから、我が家に来た。娘の場合とは違って、彼の場合は先祖が誰か、全くわからない。それは彼にとって困難なことだ。

養子の場合でも、推奨しているのは同じこと。可能なら最初のうちに遺伝的親とコネクションを持っておくことだ。そうすれば子どもは自分が誰かを理解できる。出自を知ることが、人のアイデンティティにとって根本的な問いであるという影響力を決して低く見積もってはならない。

Q. 子供が、将来、卵子ドナーや代理母に会いたいと言った場合、ゲイカップルの親はどのようにサポートしますか？ 出自を知る権利について、どのように考えていますか？

概ね、代理母とは継続的に関係を保っている。子どもも代理母と近い関係を持っている。例えば、自分の場合には、家族の休日の日には、代理母と代理母の娘と過ごした。代理母の娘と自分の娘はとても仲がいい。交流の程度や頻度については子どもたちが成長するにつれて親同士で調整する必要があるだろう。誰のお腹から生まれたの？ というのは、子どもたちがいつも知りたいことだ。卵子ドナーの関与はもっと少ない。だから卵子ドナーとの関係はあまりない。

カップルには、子どもにはオープンに話すようアドバイスしている。それは、子ども自身のストーリーだ。どうやって生まれてきたのか。など。今はそれについての子ども向けの素晴らしい本がたくさん出ている。

Q. 一般に、異性カップルとくらべるとゲイカップルの場合は、代理母との交流に

より積極的だと言われていますが、それは正しいですか？

そのとおりだと思う。それには理由がある。ゲイカップルが代理出産を依頼しようという場合、何度も不妊治療を失敗してからのことではない。ヘテロカップル場合、ものすごいトラウマと喪失の体験がある。何度も体外受精をやって失敗し、流産も経験する。そこには深い絶望がある。

女性のパートナー(ヘテロないしレズビアンカップル)が代理出産を依頼する場合、第三者を依頼しても、母親としてのアイデンティティは失われないということを理解してもらえるよう援助することが重要だ。そして、男性のパートナーは、無力感を覚えていることが多い。それとは反対に、ゲイカップルは、喜びや希望、ワクワクの気持ちでプロセスに参加する。この違いは、代理母と依頼親の関係にも反映されるのは明らか。

マッチングの際、そのカップルにとってベストなシナリオは何かを議論することは大事。子どもが生まれたあと、どんな人生を望むのか？ などの問いを精査する。例えば、代理母と近くに住んでいる場合、代理母は子どもにとっておばさんのような存在になるのか？ もしそうなら、カップルは代理出産のプロセスの間、関係を自然ななりゆきにまかせるのがいい。出産後、カップルは新生児の世話に圧倒され、ヘトヘトになるものだというのを代理母に告げておくことも必要。そのため、出産後、一般に代理母と依頼者の関係はややテンションが下がる。

出産後、代理母をどのようにケアしたらいいかを知るのに、カウンセリングは役立つ。代理母は出産後、依頼親とのつながりが失われたと感じることはありうる。代理出産は“究極のベビーシッティ



ング”だといえる。代理母は子どもを手元においておきたいわけではないが、自分は何か特別なことをしたと思っている。だから、もし関係性がポジティブなら、出産後の悲嘆は、依頼親との結びつきの証だといえる。

Q. 育児についてはどのように分担されていますか？

このことは、カウンセリングの最初に議論することだ。大抵は、どちらがより稼いでいるか、どちらか一方が主要な育児の担い手となることを望んでいるのか、家族外の人たちの助けが得られるのか、などを考慮する。

Q. 代理出産で生まれた子供にとって、家庭の中と外では、価値観が180度違う場面に直面するケースがありうると思います。どのように対処しますか。

研究によれば、子どもたちは、問題なく成長している。そのことを伝える自分なりの方法を見つけている。そのため、親は子どもの世界から身を引く必要がある。もし、家庭の中で代理出産が普通のことになっていたら、そのことを議論したり説明したりするのに問題はないはずだ。

親(特に保守的な地域に住んでいる人)にとって重要なことは、小児科医、幼稚園の先生、小学校の先生などに話しておくことだ。そうすれば、子どものことをよく理解してくれる。

年齢にあった本を渡してくれたり、クラスでいろいろな家族についての話をしたりしてくれる。このようなサポート体制、ネットワークを作ることは非常に重要だ。

Q. 遺伝的父親はどちらなのかについて、いつ頃、どのようにテリングをするのが一般的ですか？

カップルと医師以外の人に対して、その情報をだれに渡すかは、カップルが決めることだと伝える。というのは、誰か周りの人が不適切な質問をしてくることもあるかもしれない(どちらが遺伝的父親なの? とか)。だから最初から境界をはっきりさせる必要がある。

子どもが産まれることについての一般的な説明をするあいだ、子どもたちが自分でその質問をしてくるのを待つのがよいと親にはアドバイスしている。もし子どもたちが聞いてきたら、そのときに答えればよい。子どもが聞いてきたことだけに答えればよいとアドバイスしている。子どもの質問に答えて、それから、まだ他に聞きたいことはある? と聞けばよい。真実を伝えること、そして、子どもたちが聞いてきたことに対して十分な情報を与えてきちんと答えることが大事。

Q. 同性カップルの子供たちが、学校生活などで差別を経験したりストレスを覚えたりした場合に、カウンセリングなどサポートを提供する機会がありますか？

親に言っているのは、子どもたちは必ず学校でいじめられたりからかわれたりするだろうということ。ゲイの父親を持っているということが、その理由になる。子どもに、自分の家族について他の子どもにどのように話すかを教えておけば、この問題を和らげることができる。例えば、家での会話と、外での会話を区別することを教える。“あなたはこの方法で生まれたのだから、他の子どもたちよりもっとたくさんを知ってい



る。友人は好奇心でいろいろなことを質問してくるし、丁寧に説明しなければ理解できないよ”と。このように教えれば、子どもたちは安心する。これらのことを教えるのは、親の仕事だ。子どもたちが希望する時に親は説明する義務がある。

もし、からかいが発生したら(それがどのようなものであれ)、相手の親のところへ行って話し合うことを勧める。他の家族が、ゲイの親の子育て能力について間違った見方を持っているとするなら、自分たち家族の権利擁護が必要になる。

Q. 同性親を持つ子供たちのグループなど はありますか？ これらの子供たちが交流 する場はありますか？

オンラインで、たくさんのサポートグループを見つけることができる。例えば、Gay Dads というキーワードで検索すれば、数百もの結果が表示されるだろう。カンファレンス、プレイグループ、その他の集い。ゲイの親たちが自分たちの心配ごとをシェアし、違いにサポートをシェア。そして子どもたちを連れてきて一緒に遊ばせることもできる。

ゲイの父親のためのグループでは、代理出産だけでなく、子どもをもつゲイの父親は誰でも参加資格がある。

Q. 体細胞から配偶子が作成できるよう なった場合、同性カップルの間で、普及 すると思いますか？

最近、英国心理学会でそのことについてプレゼンテーションをした。倫理的な問題は脇に措くとして、そのような技術の発展は、問題の核心を必ずしも捉えていない。というのも根本的な問いは、自分は親になりたいのか？ というこ

とだから。だから、“どのようにして”ということ、まったく別の問題。最初の立ち位置は、自分は何者か？ そして、自分の人生経験として何が欲しいのか？ もし家族を作ったなら、その家族はどう見えるのか？などを考えていく。

両方の親と遺伝的につながった子どもを作るという考え方は、ヘテロカップルにとっては当たり前のことだが、ゲイカップルにはそのような考え方はない。だから、遺伝子や生物学的なつながりは、そのカップルにとってどのくらい重要なのかを精査することが重要。目的は何なのか？ ある人は遺伝的つながりを求めるが、別の人は、幸福感や健康な子どもが欲しいだけ。カウンセリングが始まる前にはこうしたことをきちんと考えていない男性たちが多いが。

Q. 子宮移植について: 子宮の提供を受け て、自分で子どもを産みたいゲイカッ プルはいますか？

スウェーデンで行われた最初の研究のとき、患者に対してカウンセリングを実施したことがある。そして今も自分の子宮を提供したクライアントを担当している。子宮移植は科学の進歩についてのエキサイティングな領域だが、男性の身体に子宮を置くだけでは実現しない。女性ホルモンも打たなければならない。だから、現時点では遠い将来のことだし現実的ではないと思う。



そして、男性の多くは妊娠に興味がない。子どもを産むときの痛みを経験したくはないと思っている。それは男性にとっては、サイエンスフィクションに近いものだ。

Q. コメント

文化の影響は非常に重要だと思う。文化がジェンダーや概念を規定している。ゲイの男性や、男性にとってそれがどういう意味を持つかといったようなこと。米国では、リベラルな都市と、保守的な都市とでかなり違っている。それぞれの場所で交わされる会話は全く異なっている。国によっても、彼らがどの文化から来たかによっても、カップルのあり方は全く異なっている。

Dr. Elliott Kronenfeld [Link](#)

公認のソーシャルワーカー及びセックスセラピースーパーバイザー。

専門分野はセクシャリティ、不妊、代理出産/養子縁組/里親、家族形成など多岐にわたる。

自身はゲイであり、代理出産と養子縁組による二人の子どもを持つ。

(2021年9月)

@YURI HIBINO